

2023年9月26日

教学 IR をきっかけとする教学改善の事例紹介

本学では2018年度に、評議会において科目の標準的な得点分布を定めた。一般の授業科目については、GP4と評価する履修者の比率を履修者全体の20～23%程度、評価不能を除くGP0を10%程度などと、基準となる各GPの履修者比率を示した。ゼミなどの演習科目については科目の特性を考慮に入れて、GP4を30%程度、評価不能を除くGP0を5%程度などとした。（この基準については2024年度に変更されることが決定されている。）

IR実施委員会では毎年度始めに、その前年度に開講されたすべての科目についての得点分布をそれぞれ求め、学生に対して学内掲示で周知している。教員に対しては、同じ資料の各科目について、基準となる比率（基準を範囲で示している場合については上限の比率）の2倍を超えているか否かについての情報を加えて、自己点検・評価委員会と全学教職員会議で公表するとともに、担当教員に対して改善を求めている。

2023年度は、前期の履修登録期間中に学内掲示するとともに、5月9日に開催された自己点検・評価委員会と、5月17日に開催された全学教職員会議において教職員に対して公表した。

その情報を基に将来構想検討委員会で検討を行い、2022年度後期にGP4、または評価不能を除くGP0の履修者比率が基準の2倍を超える全科目について、「2023年度後期 成績評価結果を踏まえたカリキュラム改善検討シート」（以下、改善検討シートという。）の作成を担当教員に求めるとともに、その内容に沿って2023年度後期のシラバスについても修正を求めることを決め、8月10日の各学部教授会で報告・依頼した。

改善検討シートは、シラバスの到達目標（身につける資質・能力）の設定、成績評価方法の設定など6項目について、それぞれ修正を行うか否かとその理由を記入するものとなっている。改善検討シートは後期授業開始までに対象となる全教員から提出され、将来構想検討委員会および自己点検・評価委員会で共有が図られた。

IR実施委員会